

活動助成（2009年度募集）活動実績報告書

団体名	京都橘大学 救急救命研究会
活動テーマ	かけがえのない命を守るため さらになる救命率向上を目指して



心肺機能が停止してからの救命率は1分ごとに約10%低下するため、一刻も早い応急手当が必要とされている。その救命率の低下を少しでも和らげるために必要な手技が心肺蘇生法（以下CPR）であり、CPRを行えば救命率の低下は半分まで防ぐことが可能である。ただしそれに対し、救急隊の現場出発から到着までの全国平均時間は7.9分であり、必然的に現場に居合わせた人への迅速なCPRが期待されている。近年では目撃のある心肺機能が停止した傷病者のうち、一般市民による応急手当の実施件数は4年前の41.0%から現在では51.3%にまで年々増加している。

助成事業の一つとして実施した救急救命講演会では、第1回目はPrimary careの重要性—あなたにも出来る応急手当—、第2回目は救急救命士の育成と生涯教育をテーマに行なった。

次に実施した心肺蘇生法講習会では、心肺蘇生法の必要性や根拠について講義を行い、その後実技を行った。講義を行ったことで、より意識を高く持ち実技を行っていただくことができた。さらに簡易型蘇生人形を一人一人体ずつ使用したことで質の高い心肺蘇生法講習会になった。講習会には大学近隣の地域住民を含め18名が受講し全員が優秀な成績で合格した。

上記の活動を通し、救急救命講演会で心肺蘇生法普及に関する心構えを学び、心肺蘇生法講習会につなげることができた。心肺蘇生法普及活動は、1年で完結するものではなく繰り返し行うことで定着するものである。これからも講習会や心肺蘇生法体験ブース設置により普及活動を行っていく予定である。救命率の向上にすぐにはつながらないかもしれないが、継続して行うことで、将来的に救命率の向上につながると考えている。